第83期
事業報告書

平成15年4月1日 ▶ 平成16年3月31日

株式会社 中村屋

証券コード 2204

目次

株主の皆様へ 1
部門別状況 3
単独財務諸表 5
連結情報 7
Topics 8
会社情報 9
株式情報 10

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申しあげます。
ここに当社第83期(平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)における事業の概況をご報告申しあげます。

営業の経過および成果

当期中のわが国経済は、堅調な輸出に支えられた企業収益の改善や設備投資の増加などにより、景気は緩やかな回復の兆しが見られましたが、デフレ傾向の継続、依然として好転しない雇用情勢や所得環境などから、個人消費は本格的な回復には至りませんでした。

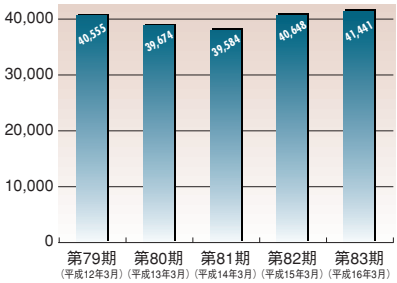
菓子・食品業界におきましては、市場全体が伸び悩む中にあって、冷夏による売り上げ低迷の影響に加え、年度後半には米国産牛のBSE問題や鳥インフルエンザの発生による消費の落ち込みや、原材料の値上がりなどがあり、経営環境は厳しい状況で推移いたしました。また、このような環境の中で、お客様は、商品に対して安全・安心を重視する意識を更に高めるとともに、価格だけでなく品質を厳しく見極め、価値がある商品だけを選択購入するなど消費行動は大きく変化しております。

このような状況のもとで当社では、「中期経営計画・プラン21」の2年目をむかえ、経営方針として定めた「選択と集中による事業構造の改革」「ローコスト体質への変革」「新技術・新製品開発の加速」「品質保証（おいしさと安心、安全）の徹底と実行」「環境保全活動の推進」の諸施策の具現化に努めてまいりました。

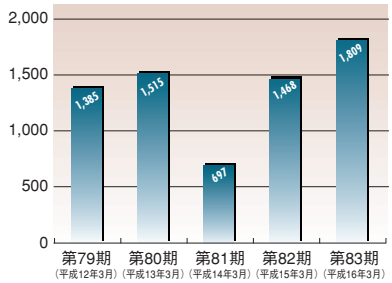
以上のような経過の中で、当期の売上高は、食品部門におけるレトルト食品類および主力商品である菓子部門における中華まんじゅう類などの積極的な営業展開による売り上げ増が寄与し、41,441百万円、前期比792百万円、1.9%の増収となりました。

利益面におきましては、増収による粗利益増に加え、ローコスト構造改革の推進のほか、有利子負債の削減に努めるなど、経営方針に基づく諸施策を実行したことにより、経常利益は1,809百万円、前期比340百万円、23.1%の増益となりました。また、当期は、固定資産等を除却処分したことなどにより特別損失として166百万円を計上いたしました。以上の結果、当期純利益は836百万円、前期比105百万円の増益となりました。

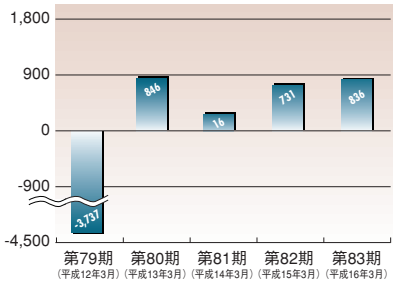
売上高（百万円）



経常利益（百万円）



当期純利益（百万円）



会社が対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、世界経済が堅調に推移する中で、株価の回復や個人消費動向など景気を巡る環境に明るい変化が見られるようになってきましたが、為替動向や中東問題など懸念材料も残されており、景気が本格的な回復軌道に乗れるかどうか依然として不透明な状況であります。

菓子食品業界におきましても、一連の食肉に関する問題の影響もあり、お客様の健康、安全志向や高品質志向がますます高まるとともに、企業の社会的な責任も強く求められるなど、経営環境は一層厳しくなるものと思われます。

また、企業には、税制や商法の改正、会計制度、社会保険制度の変更などを契機として、経営体質、財務体質を更に強化させることが求められております。

このような環境のもとで、当社では、平成16年度の経営目標を達成させるために、お客様第一の基本に立ち「実行」をキーワードとして、「事業構造の改革」「ローコスト構造の改革」「財務体質の改革」「マネージメントの改革」を推進し、より強い収益体質の確立を目指します。また、法令の順守、品質保証活動へ徹底して取り組むとともに、お客様ニーズにあった高品質な商品の開発をスピーディーに実行し、より一層お客様の信頼と満足を得られる企業への成長を目指してまいります。

また、環境保全活動につきましても、環境負荷の少ないシステムの構築を推進するとともに、食品廃棄物の低減や再資源化など具体的な取り組みを進めてまいります。

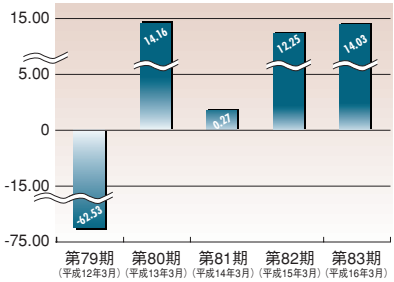
これらを遂行していくにあたりましては、昨年に引き続き「スピード」「チャレンジ」「コミットメント」「コミュニケーション」を行動指針として掲げ、変革とスピード、そして実行を第一とした全社一丸での取り組みを行ってまいります。

以上のとおり、平成16年度の経営方針として定めた諸施策を具現化し、業績の向上に努めていく所存であります。

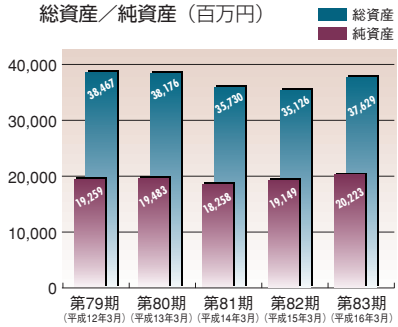
株主の皆様におかれましても、引き続き一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申しあげます。

代表取締役社長
長沼　誠

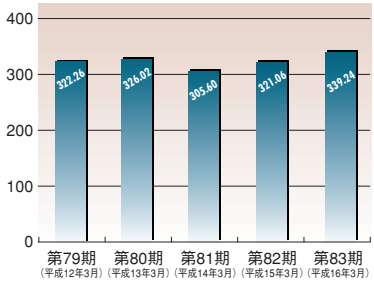
一株当たり当期純利益（円）



総資産／純資産（百万円）

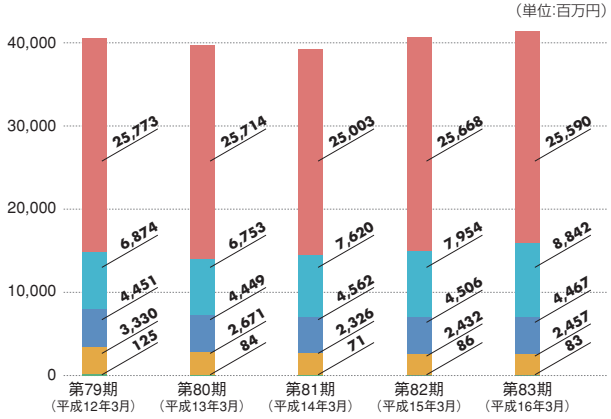


一株当たり純資産（円）



部門別状況

部門別売上高



部門別（第83期売上高構成比率）　**主要商品**

菓　子	**61.7%**	**和菓子**　中華まんじゅう、月餅、桃山、碌山、うすあわせ、粒栗まん、栗きんとん、さごろも、ちーずあんチーズ、わかなの、まろんぱい、やわらか、羊羹、米菓（黒光あられ、八番館、江戸ばやし、花手毬、こがねはずみ、花の色よせ、稲穂まつり等）、カステラ、パックデザート（水ようかん等）、袋菓子（かりんとう、うにあられ等）、和生菓子、季節菓子（雛菓子、柏餅、千歳飴等） **洋菓子**　アイリッシュケーキ、バラエティーセレクション、ふんわりたると、パフレア、ショコラーデブラリーネン、サンドサブレ、マロングラッセ、パックデザート（プリン、果実のゼリー等）、季節菓子（バレンタインデー、ホワイトデー、クリスマス玩具菓子等）、洋生菓子
食　品	**21.3%**	業務用食品、市販用食品、ハム・ソーセージ、調理缶詰（カリー、ボルシチ、ビーフシチュー等）
飲　食	**10.7%**	インドカリー、フランス料理、中国料理、南欧料理、スパゲティ、サンドイッチ、デザート、飲料
パ　ン	**5.9%**	食パン、菓子パン（あんぱん、クリームパン等）、かりかりまん、アチアチパンズ
その他	**0.2%**	特注商品等

菓子部門

和菓子贈答類につきましては、本年も独創性豊かな新商品の開発を行いました。チーズ風味の餡とパイ生地を食べやすく棒状に仕立て焼きあげた「ちーずあんチーズ」、しっとりとやわらかな食感の和洋折衷の焼菓子「やわらか」、渋皮の付いた栗をそのまま包んだ「まろんぱい」を発売し、また、季節感を訴求する商品として「果実月餅」「うすあわせ いちご」を季節限定で発売しました。

和生菓子類では、四季折々の行事に合わせ季節の花や果実をデザインした新商品を投入し、店舗での季節感、鮮度感を演出しました。また、ボリューム感があり、お手頃な価格でお求めいただける「薄づくり栗まんじゅう」を新発売し、幅広いお客様にご利用いただきました。

パックデザート類では、バラエティー豊かな和風ギフト「和水菓」と、ご好評をいただいている「涼菓撰」「涼味いろいろ」のプライスラインの幅を広げるなどお客様のニーズに応えた商品開発を実施しました。

まろんぱい

米菓進物類では、主力商品である「花手毬」「花の色よせ」について品質改良とパッケージの改良を実施し、商品の魅力度を向上させました。

中華まんじゅう類は、主力商品である「肉まん」「あんまん」「天成肉饅」「特撰肉饅」など11品目で具と生地の改良を実施し更なる品質向上を図りました。また、中華街の肉まんをモチーフにした「大入りジューシー肉まん」や本格中華料理をそのまま手包みした「豚角煮まん」など高品質、高付加価値商品を開発し積極的な営業展開を実施し、お客様にご好評をいただき売り上げ拡大を図ることができました。

店舗展開につきましては、お客様が幅広い高品質な商品を用途に応じて組み合わせていただける、百貨店名店街の新基軸のショップ、東急東横売店、丸井北千住売店、小田急町田売店を連続して出店しました。また、デザート菓子「スフレロール」を販売する店舗を駅構内に出店させるなど、新たな営業展開に積極的に取り組んでおります。

以上のようにお客様のニーズを的確にとらえ、新商品発売268品目、商品改良発売136品目を実施し、商品面、価格面、サービス面などできめ細かく対応するとともに、積極的な営業展開を図りましたが、菓子部門全体の売上高は、25,590百万円となり、前期に対し0.3%減少いたしました。

スフレロール

飲食部門

外食市場全体の縮小傾向により既存の店舗が苦戦する中で、1店舗の閉鎖と2店舗の改装に伴う休業による減収があり、厳しい環境となりましたが、売り上げ確保に努めました。「本店」では、お買い物がしやすい快適な店舗とするために一階の改装を実施しました。また、「新宿中村屋インドカリーの店」は、当社の強みであるカリーを主体とした店として、順調に出店を加速し、六本木ヒルズ店、船橋東武店、玉川高島屋店、丸井北千住店を開店いたしました。その他直営レストランでは、独自の調理技術を活かし、季節感を訴求できるメニュー開発を推進するとともに、「オリーブハウス国分寺店」のリニューアルなどを行った結果、飲食部門全体の売上高は4,467百万円となり、前期に対し0.8%の微減収に留めることができました。

新宿本店「インドカリー」

パン部門

直売部門では、96品目の新製品を発売し品揃えの強化を図るとともに、店舗ごとのきめ細かいキャンペーンなどで売り上げの拡大に努めました。また、納品部門では、コンビニエンス販路向けオリジナル商品「アチアチバンズ」に、改良を加えるとともにピザタイプやスティックタイプを開発し、シズル感のある商品として全店舗に展開を拡大させることができました。また、揚げ物商品としての基幹商品である「かりかりまん」は、更なる商品改良と新商品開発を行いました。

以上のように商品力の強化を図り売り上げの増加に努めた結果、パン部門全体の売上高は、2,457百万円となり、前期に対し1.0%増加いたしました。

アチアチバンズ「ピザチーズ&ソーセージ」

食品部門

食品部門では、食品工場でHACCP(ハセップ)認証を取得いたしました。更なる品質保証体制を強化するとともに、価格志向から品質志向への消費行動の移行を視野に入れた対応を行ってまいりました。業務用食品は、お取引先様の業態別に取り組みを強化し、お客様志向に立ったメニュー開発を行い、お取引先様へのメニュー提案を積極的に進めるなど、売り上げの拡大を図りました。市販食品では、レトルト食品については既存のインドカリーシリーズ7品目に加えて、「牛肉と豆のキーマ」を開発するとともに、ハヤシフレーク、スープ類3品目、新たな食材として中華調理用ソース4品目、合計9品目を新発売し、積極的な営業活動により取り扱い店舗を増加させ、売上高の拡大に大きく寄与しました。その結果、食品部門全体の売上高は8,842百万円となり、前期に対し11.1%増加いたしました。

麻婆豆腐専用ソース

チンジャオソース

ミネストローネスープ

その他の部門

特注商品など売り上げの拡大に努めましたが、部門全体の売上高は83百万円となり、前期に対し3.5%減少いたしました。

単独財務諸表

貸借対照表

（単位：千円）

科目	第83期（平成16年3月31日現在）	第82期（平成15年3月31日現在）
資産の部		
流動資産	**14,934,200**	**12,359,949**
現金及び預金	2,135,677	2,960,465
受取手形	7,333	32,574
売掛金	4,006,848	4,014,091
有価証券	1,858,074	1,843,167
製商品	637,833	666,327
半製品	12,556	12,388
原材料	235,613	353,952
仕掛品	260,722	295,296
貯蔵品	157,896	166,774
前払金	221	6,562
前払費用	95,164	114,880
繰延税金資産	493,392	509,675
未収収益	40,026	22,395
短期貸付金	2,000	—
未収入金	59,269	56,167
仮払金	23,901	5,674
その他の流動資産	4,947,246	1,315,580
貸倒引当金	△ 39,579	△ 16,025
固定資産	**22,695,579**	**22,766,347**
有形固定資産	**8,118,434**	**8,648,958**
建物	3,743,457	3,917,090
構築物	189,756	206,637
機械及び装置	1,668,950	1,918,717
車両運搬具	3,191	4,371
工具器具及び備品	364,536	445,197
土地	2,148,541	2,150,747
建設仮勘定	—	6,196
無形固定資産	**60,481**	**26,865**
商標権	886	1,092
ソフトウェア	34,416	—
電話加入権	23,257	23,599
水道施設利用権	1,920	2,173
投資その他の資産	**14,516,663**	**14,090,522**
投資有価証券	5,511,292	4,623,174
長期貸付金	5,200,000	5,215,000
長期未収入金	324,344	183,241
長期前払費用	29,655	26,611
長期繰延税金資産	2,318,749	2,550,373
その他の投資	1,506,716	1,686,057
貸倒引当金	△ 374,095	△ 193,934
資産合計	**37,629,779**	**35,126,296**

科目	第83期（平成16年3月31日現在）	第82期（平成15年3月31日現在）
負債の部		
流動負債	**5,676,881**	**6,316,083**
買掛金	1,632,597	1,526,132
短期借入金	679,000	1,329,000
未払金	684,421	966,065
未払法人税等	1,067,067	590,563
未払事業所税	21,371	21,584
未払消費税等	161,302	259,333
未払費用	525,693	552,207
預り金	45,998	53,521
前受収益	7,982	4,928
賞与引当金	851,446	1,012,746
固定負債	**11,728,940**	**9,660,704**
社債	2,000,000	—
保証金	28,959	23,448
退職給付引当金	9,488,451	9,331,162
役員退職慰労引当金	211,529	306,093
負債合計	**17,405,822**	**15,976,788**
資本の部		
資本金	**7,469,402**	**7,469,402**
資本剰余金	**7,348,323**	**7,348,323**
資本準備金	5,704,843	5,704,843
その他資本剰余金	1,643,480	1,643,480
資本金及び資本準備金減少差益	1,643,480	1,643,480
利益剰余金	**4,751,592**	**4,421,856**
任意積立金	3,683,330	2,211,862
退職給与積立金	21,772	21,772
固定資産圧縮積立金	1,303,558	1,282,090
別途積立金	2,358,000	908,000
当期未処分利益	1,068,262	2,209,994
株式等評価差額金	**691,293**	**△ 61,807**
その他有価証券評価差額金	691,293	△ 61,807
自己株式	**△ 36,654**	**△ 28,266**
資本合計	**20,223,957**	**19,149,508**
負債及び資本合計	**37,629,779**	**35,126,296**

（注）記載金額は、千円未満を切り捨て表示しております。

損益計算書

（単位：千円）

科目	第83期（平成15年4月1日から平成16年3月31日まで）	第82期（平成14年4月1日から平成15年3月31日まで）
経常損益の部		
営業損益の部		
営業収益	41,441,135	40,648,319
売上高	41,441,135	40,648,319
営業費用	39,818,785	39,314,519
売上原価	23,013,217	22,458,168
販売費及び一般管理費	16,805,567	16,856,351
営業利益	1,622,350	1,333,799
営業外損益の部		
営業外収益	275,955	224,490
受取利息及び配当金	164,608	128,578
雑収入	111,346	95,912
営業外費用	89,195	89,759
支払利息	7,563	9,487
社債利息	48,932	6,892
雑損失	32,699	73,379
経常利益	1,809,110	1,468,530
特別損益の部		
特別利益	10,351	2,209,145
固定資産売却益	6,175	—
厚生年金基金代行部分返上益	—	2,209,145
投資有価証券売却益	4,176	—
特別損失	166,211	2,201,684
固定資産除売却損	125,615	57,522
投資有価証券売却損	—	1,055,414
投資有価証券評価損	40,595	1,088,448
ゴルフ会員権評価損	—	300
税引前当期純利益	1,653,250	1,475,990
法人税、住民税及び事業税	1,081,036	635,514
法人税等調整額	△ 264,493	109,052
当期純利益	836,706	731,423
前期繰越利益	231,555	122,050
利益準備金取崩額	—	1,356,520
当期未処分利益	1,068,262	2,209,994

（注）記載金額は、千円未満を切り捨て表示しております。

利益処分

（単位：円）

科目	第83期
当期未処分利益	1,068,262,232
任意積立金取崩額	
退職給与積立金取崩額	21,772,032
固定資産圧縮積立金取崩額	6,687,131
合計	1,096,721,395
これを次のとおり処分いたします。	
利益配当金	506,720,870 1株につき 8 円50銭
任意積立金	
別途積立金	370,000,000
次期繰越利益	220,000,525

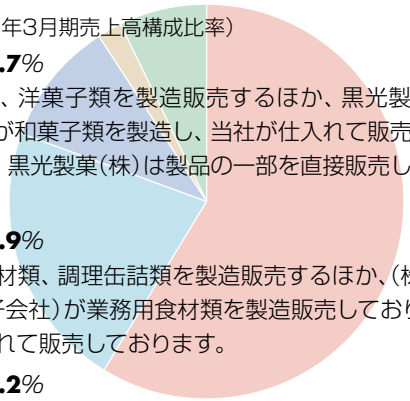
（注）固定資産圧縮積立金取崩額は、租税特別措置法の規定に基づくものであります。

連結情報

連結決算ハイライト

	平成14年3月期	平成15年3月期	平成16年3月期
売上高	41,645	42,868	43,596
菓子事業（百万円）	25,024	25,672	25,594
食品事業（百万円）	8,322	8,766	9,536
飲食事業（百万円）	4,562	4,506	4,467
不動産賃貸事業（百万円）	746	806	875
その他の事業（百万円）	2,989	3,116	3,122
営業利益（百万円）	739	1,560	1,988
経常利益（百万円）	637	1,432	1,990
当期純利益（百万円）	△119	696	888
営業活動によるキャッシュフロー（百万円）	2,071	4,159	2,818
投資活動によるキャッシュフロー（百万円）	1,837	△2,678	△4,005
財務活動によるキャッシュフロー（百万円）	△3,136	△1,593	△345
総資産（百万円）	44,716	43,894	45,251
株主資本（百万円）	15,691	16,528	17,666
一株当たり当期純利益（円）	△1.99	11.66	14.90
一株当たり株主資本（円）	262.64	277.12	296.34
株主資本比率（%）	35.1	37.7	39.0
株主資本当期純利益率（%）	△0.7	4.3	5.2
総資本経常利益率（%）	1.4	3.2	4.5
売上高経常利益率（%）	1.5	3.3	4.6

事業概要（平成16年3月期売上高構成比率）



(1)菓子事業　58.7%

当社が和菓子類、洋菓子類を製造販売するほか、黒光製菓(株)(連結子会社)が和菓子類を製造し、当社が仕入れて販売しております。なお、黒光製菓(株)は製品の一部を直接販売しております。

(2)食品事業　21.9%

当社が業務用食材類、調理缶詰類を製造販売するほか、(株)ハピーモア(連結子会社)が業務用食材類を製造販売しており、一部を当社で仕入れて販売しております。

(3)飲食事業　10.2%

当社がレストランの経営を行っております。

(4)不動産賃貸事業　2.0%

(株)エヌエーシーシステム(連結子会社)がオフィスビル等の賃貸業務を行っております。

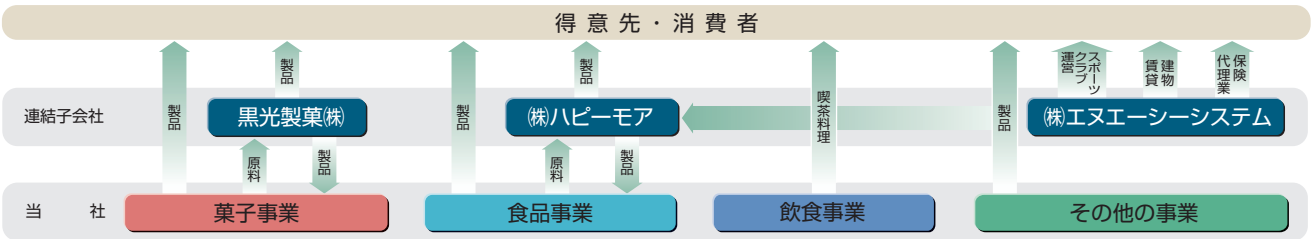
(5)その他の事業　7.2%

当社がパン類を製造販売するほか、(株)エヌエーシーシステムがスポーツクラブの経営および保険代理業を行っております。

連結子会社

会社名	資本金(千円)	当社の議決権比率(%)	主な事業内容
黒光製菓株式会社	26,400	100.00	和菓子類の製造販売
株式会社ハピーモア	120,000	100.00	食材類の製造販売
株式会社エヌエーシーシステム	90,000	100.00	不動産の賃貸・スポーツ施設の経営および保険代理業

グループの状況



TOPICS
トピックス

品質保証体制を強化

中村屋は「品質保証（おいしさと安心、安全）の徹底と実行」という経営方針のもと、品質保証体制の更なる強化を図りました。

食品工場は平成15年5月、レトルトパウチ製造ラインでHACCP（ハセップ）を認証を取得しました。HACCPは、材料の入荷から加工、出荷の全行程において、あらかじめ決められた危害を防止するための重要管理事項を定め、継続的に監視・記録していくシステムです。これにより、不良製品の出荷を未然に防ぎ、品質の安定化を目指します。

また、研究開発室では、残留農薬とアレルギー物質の自主検査システムの稼動を開始しました。業者により検査済みである輸入原材料（農産物）の残留農薬や、表示義務がある特定原材料5品目（卵、乳、小麦、そば、落花生）の混入の有無について自主検査し、商品への農薬混入や、アレルギー物質の表示漏れを防いでいきます。

～お客様に美味しい商品を安心して召し上がっていただく～食に携わる企業として当たり前のことを当たり前に果たすため、徹底した品質管理を行ってまいります。

中村屋伝統の味「インドカリー」を米菓で

中村屋の伝統料理「純インド式カリー」をモチーフとした米菓、「カリーあられ」を発売しました。

昭和2年、本店の喫茶部開設と同時にメニューに取り入れられた「純インド式カリー」。これは、インド独立運動の志士で、創業者相馬夫妻の娘・俊子の夫であるラス・ビハリ・ボースから教わった本場のカリーでした。以来77年間、お客様に支えられ、守り続けてきた伝統の味を基に、スパイスをアレンジして仕上げたのがこの「カリーあられ」です。

中村屋伝統の味に恥じぬよう味付けには細心の注意を払い、総料理長が開発に参加、満を持しての発売です。サクッと揚げた生地の食感、タレがけしたソースとまぶしたパウダーのカレー風味の調和を是非お楽しみ下さい。中村屋のカリーの歴史に新しい1ページを刻む一品です。

キリンビバレッジ株式会社と飲料を共同開発

中村屋はキリンビバレッジ株式会社と共同で、食事に合う無糖紅茶を開発しました。商品名は「食べ茶」。キリンビバレッジ株式会社の主要ブランド「午後の紅茶」シリーズの一つです。クセの少ない紅茶葉を使い、渋みを抑え、隠し味（香辛料）を加えることで、ひと口ごとに料理の美味しさをくっきりと際立たせる味に仕上げました。

従来パン食にしか合わないイメージがあった紅茶。しかし、古くから日本の食文化に貢献してきた中村屋の伝統と発想力、キリンビバレッジ株式会社の開発力が合わさって、そのイメージを覆す、幅広い料理に合う紅茶が誕生しました。開発にあたっては当社総料理長がテイスティングを重ね、太鼓判を押した一品です。

それぞれの会社が得意分野で協力し合って新たな商品を創りだす「コラボレーション商品」（共同開発商品）。食にこだわり続ける中村屋ならではの商品を是非一度お試し下さい。

会社情報（平成16年6月29日現在）

概　要

創　　業	明治34年12月30日
設　　立	大正12年4月1日
資 本 金	74億6,940万円
発行済株式総数	5,976万株
営業内容	各種和洋菓子・パン・その他食料品の製造、販売ならびに飲食店の営業
従 業 員	1,059名 （上記の他臨時従業員が期中平均1,711名おります。）

役　員

取締役社長（代表取締役）	長　沼　　誠
専務取締役	神　田　隆　男
専務取締役	小山田　信　義
常務取締役	二　宮　　健
取　締　役	四　方　　満
取　締　役	高　橋　明　弘
取　締　役	染　谷　省　三
取　締　役	飯　山　一　伸
取　締　役	西　村　政　晃
取　締　役	小　林　　恒
取　締　役	小　林　政　志
常勤監査役	田　嶋　和　彦
常勤監査役	座光寺　　威
監　査　役	原　　秋　彦

（注）監査役原秋彦氏は「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

主な事業所

名称	所在地・TEL
本社	〒160-0022　東京都新宿区新宿三丁目26番13号 TEL（03）3352-6161（大代表）
東京事業所	〒151-0073　東京都渋谷区笹塚一丁目50番9号 TEL（03）5454-7111（総務・人事部） TEL（03）3481-1163（菓子事業部）
研究開発室	〒243-0401　神奈川県海老名市東柏ケ谷四丁目4番1号 TEL（046）234-3170（代表）
神奈川工場	〒243-0401　神奈川県海老名市東柏ヶ谷四丁目4番1号 TEL（046）231-4511（代表）
食品工場	〒243-0401　神奈川県海老名市東柏ヶ谷四丁目4番1号 TEL（046）233-5161（代表）
埼玉工場	〒346-0101　埼玉県南埼玉郡菖蒲町昭和沼17番地 TEL（0480）85-5911（代表）
つくば工場	〒300-1281　茨城県牛久市桂町2200番46号 TEL（0298）75-0911（代表）
中央営業所	〒151-0073　東京都渋谷区笹塚一丁目50番9号 TEL（03）3481-1153（東京営業・NC部）
東営業所	〒271-0052　千葉県松戸市新作字舟付225番地の1 TEL（047）361-2211（代表）
南営業所	〒243-0401　神奈川県海老名市東柏ヶ谷四丁目4番1号 TEL（046）231-4513（代表）
北営業所	〒360-0161　埼玉県熊谷市万吉（まげち）2550番地 TEL（048）539-4133（代表）
札幌営業所	〒001-0011　北海道札幌市北区北11条西一丁目5番地 TEL（011）747-5561（代表）
名古屋営業所	〒453-0036　愛知県名古屋市中村区森田町一丁目4番26号 TEL（052）482-1564（代表）
大阪営業所	〒664-0845　兵庫県伊丹市東有岡一丁目89番地1 TEL（0727）80-0551（関西営業部）
福岡営業所	〒812-0016　福岡県福岡市博多区博多駅南六丁目9番46号 TEL（092）441-1831（代表）

株式情報 （平成16年3月31日現在）

株式の状況

① 会社が発行する株式の総数　199,044,000株

② 発行済株式の総数　59,762,055株

（注）自己株式148,835株が含まれており、そのうち期末現在の実質的な所有株式数は147,835株であります。

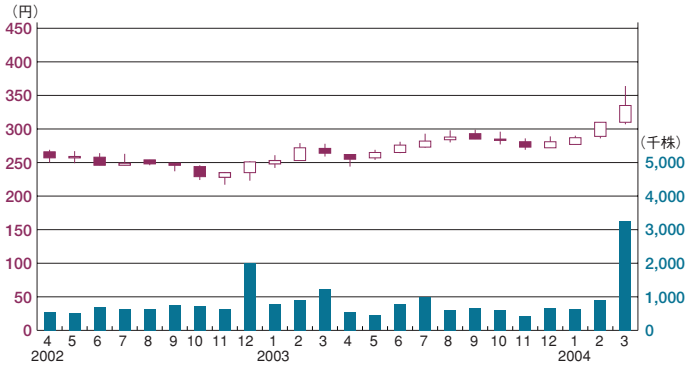
③ 株主数　10,211名

（注）前期末に比し98名減少いたしました。

大株主（上位10名）

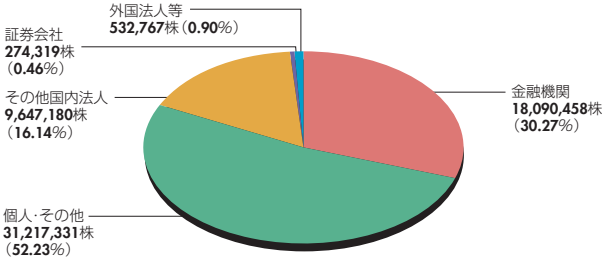
株主名	持株数（千株）	議決権比率（%）
中村屋取引先持株会	4,255	7.27
株式会社　みずほ銀行	2,925	5.00
中村屋従業員持株会	1,747	2.99
株式会社　りそな銀行	1,646	2.81
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,546	2.64
朝日生命保険相互会社	1,480	2.53
株式会社　東京三菱銀行	1,327	2.27
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,073	1.83
みずほ信託銀行株式会社	957	1.64
三菱信託銀行株式会社	787	1.35

株価の推移

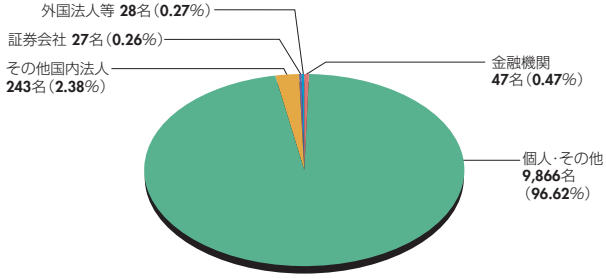


所有者別株式分布状況

株式数（59,762,055株）



株主数（10,211名）



株主優待

3月31日の最終の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された1,000株以上の株主様に対し、お買物・ご飲食の10%割引券50枚綴り1冊を6月上旬に送付いたしております。

ただし、お取り扱い店舗は、43店に限らせていただきます。

株主メモ

決算期	3月31日
配当金受領株主確定日	利益配当金　3月31日
定時株主総会	6月
1単元の株式数	1,000株
公告の方法	日本経済新聞に掲載します。ただし、商法特例法第16条第3項に定める貸借対照表および損益計算書に係る情報は、http://www.nakamuraya.co.jp/kessankoukoku.html において提供します。
名義書換代理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社　本店証券代行部
（郵便物送付先 電話お問合せ先）	〒135-8722　東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社　証券代行部 電話番号　03-5213-5213（代表）
同取次所	みずほ信託銀行株式会社　全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社　本店および全国各支店

株式会社 中村屋

住　所：東京都新宿区新宿三丁目26番13号
電　話：03-3352-6161（大代表）
e-mail：webmaster@nakamuraya.co.jp
ＵＲＬ：http://www.nakamuraya.co.jp
〈お問い合せ先〉総務・人事部
電　話：03-5454-7111

表紙の写真

〈上〉うすあわせ

しっとりとしたパイ皮で、小豆、かぼちゃ、さつまいもの3種類の餡を包んだソフトな口当たりの焼き菓子です。甘さ控えめで、自然の味を活かしたおいしさです。

〈中〉和水菓

すっきりした味わいの西瓜と甘夏のゼリーや、上品な甘味の栗ぜんざい、黒蜜や白蜜でいただくみつまめなど、和のおいしさが楽しめるお中元に最適なギフト商品です。

和水菓2号
3,150円（税込み）

〈下〉中村屋本店　レガル（3階）

四季の素材を活かしたフレンチのコースと伝統のカリーを、美術品に囲まれた落ち着いた雰囲気の中で、召し上がっていただけます。

本冊子は、再生紙を使用しております。